

平成三十年年度 日高看護専門学校 入学試験問題

〔一般〕

〔国語総合〕

(時間：六十分)

《《注意事項》》

- 1 試験監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください。
- 2 解答题紙には解答欄以外に次の記入欄があります。監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
- ① 氏名欄に、氏名・フリガナを記入してください。
- ② 番号欄に、右詰めで受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしてください。
正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。
- 3 解答は、解答题紙の問題番号に対応した解答欄にマークしてください。
国語総合の問題は全部で三十八問あります。解答题紙の問一から問三十八までの解答欄を使用してください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答题紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験終了後に問題冊子を回収しますので持ち帰らないでください。
- 6 問題冊子の所定の欄に受験番号を記入してください。

受 験 番 号

□ 次の問いに答えなさい。解答番号は□1～□5。

- 問一 次の作品の中で、作品の書かれた時代が違つものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□1。
- ① 浮雲 ② 道程 ③ 杜子春 ④ 春と修羅

問二 次の書き出しで始まる作品の題名を選び、番号で答えなさい。解答番号は□2。

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。ためし世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。

- ① 平家物語 ② 更級日記 ③ 方丈記 ④ 奥の細道

問三 次のうち、敬語の使い方が誤っているものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□3。

- ① 私の製作した服を拝見してください。
② 先生から今年、年賀状をいただいた。
③ 今日、父が無事に退院いたしました。
④ 私の父が明日、お宅にうかがいます。

問四 「花鳥風月」と同じ漢字の構成で成り立っている四字熟語を一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□4。

- ① 日進月歩 ② 利害得失 ③ 喜怒哀楽 ④ 質疑応答

問五 次の傍線部の語句と同じ品詞が用いられているものを、あとから一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□5。

彼には食へ物の好き嫌いがあるらしい。

- ① 社会人らしい服装をしなさい。
② 今日の日本海は穏やからしい。
③ ゴッホの描く絵はすばらしい。
④ 病氣らしい病氣はしていない。

□ 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。解答番号は6～22。

日本には「道理」というものがある。では、「道理」とは何なのでしょうか。

「道理」という概念を、世の中を支配する理念として論じたのは、十三世紀の初めに『愚管抄』^{ぐくわんしょう}を著した慈円^{じえん}が最初といえます。当時は、ちょうど源平の騒乱が終わったあとの「ヘンカク」期で、価値観などが大きく変わる不安の時代でもありました。それまで抛り所^なにされてきた仏教の「因果応報」の摂理^{しり}などでは説明のつかない現実を人々が目の当たりにするわけです。

A 慈円は、つぶさに観察した現実には、変わらないもののあることに気づくのです。貴族から武士の世になり、日本を二分する大きな戦乱を経て、最後に残っていたのは皇室だったという事実です。勝った源氏も負けた平家も、ともに尊敬し、大事にしていたのが皇室だったということそのものに、日本の「道理」の基本を見えています。

単なる因果応報ということだけではない、何かある種の筋道が、つまり「道理」の支配が日本にはあって、鎌倉幕府が誕生した。慈円は藤原氏ですから、チョウテイ側の人間ですが、頼朝の政治を「道理」にかなったものとして認めています。

やがてその武士の道徳「道理」に基づいて第二代執権・北条泰時を中心とする評定衆の手で「関東御成敗式目」が制定されます。これが、合理主義的かつ経験主義的な法理念をまとめた見事なもので、「道理」の規範が集約されたものと言えます。イセイ者側に、人間の現実観察と自然の摂理についての深い思索があったということだと思います。

「道理」というのは、日本の「自然道」と関連していると私は見えています。もともと名づけようもなく存在していた生きる規範のようなものを、道徳としてとらえ、「道理」と名づけたということでしょう。

それは、日本人本来の生き方はずっとこうであった、という感覚のようなものですから、一神教の「神から与えられた理性の光」とは違うものです。それでも西洋人は、生き方を支える抽象的な観念として「道理」を「理性」と置き換えてカイヤクしようとしたのです。

しかし、ザビエルは結局、日本人の内面に潜んでいる根源的な宗教性というものを捉えることができず、多神教であるということ、未開の宗教観しか持ち合わせない民族という見方に落ち着くのです。

西洋の宗教学では、一神教であるキリスト教こそが一番高い宗教であって、多神教はもつと下位の宗教、ましてや自然道などというのはアニミズム、シャーマニズムのように原始的な宗教として、階級的な認識をします。そのため、ザビエルは日本人を見誤ったのです。幕府によるダンアツ^{だんあつ}がなくても、日本での布教活動は成功しなかったでしょう。今も日本でキリスト教徒が国民の一パーセントにも満たない理由の一端が、この辺りに潜んでいるように思われます。

一方で、徳川家康に「コモンとして仕えたイギリスの航海士ウィリアム・アダムス(三浦按針)は、日本人の公正さを誉めています。日本では法を犯すものはいかなる差別もなく公正に裁かれます。すべての人々は秩序によって治められている。」
B 世界中でこの国ほど市民政治が確立されているところはない」とまで言っているのです。

幕末に來日したドイツ人医師・博物学者のシーボルトは、自然豊かな日本の景観を非常に誉めています。「寺社の林苑の何という崇高さ！ 火山の頂きに映える緑の美しさ！ 丘の斜面の常緑の櫻、杉、月桂樹の何とうっそうと茂っていることか！ どのような人々が勤勉に働いて、こんなに自然を手なずけたのだろうか！ まさに賞賛に値する」など、植物学者としての観点からも感想を日記に記しています（『花の男シーボルト』大場秀章）。

長崎のグラバー亭で知られるスコットランド人・トーマス・グラバーは、幕末の日本で諸藩に対して武器を売りつけた、ある意味では悪名高い戦争商人のような人物ですが、外国人でありながら日本の近代化を助けた人でもあります。

グラバーは「私は日本の大名と何十万、何百万と取引したことがある。（中略）だが賄賂は一銭も自分は使ったものはない。立派な武士の根生でやった」と語っていたそうです（『花と霜』）。

賄賂など、お金への欲望を超えたところに日本人の生き方があったということです。それは決して崇高な觀念があったということではなくて、共同体でその人の評価が乱されると、その影響が尊敬すべき周りの人々にも及んでしまふ恐れが、恥ずかしいとされる行為への強い「ヨクセイ」として働くのだと思います。

日本人は、お金では動かされない、買収のきかない民族だとみなされていたわけで、日本人自身にも、そこに誇りがあったと思うのです。その「名残」は、今も日本にチップの習慣がないところに見られるかもしれません。

よく引用されるのですが、イギリス人の女性旅行家・イザベラ・バードが明治一一（一八七八）年の日本を旅行した際、馬子がなくしものを一里も戻って探してきてくれて、しかもなお、お金を受け取らなかったということをして『日本奥地紀行』に書いています。

台湾人の評論家・黄文雄氏も、日本を愛してやまない外国人の一人ですが、「日本に來た多くの外国人は、日本人が礼儀正しく、勤勉かつ親切で、他人に対してきめ細やかな「ハイリヨ」を行うことに感激する」といったことを述べています。日本人より客観的な視線で日本人を観察していると思うのですが、その黄氏が、日本人の氣質を絶賛する外国人の記録は古今から枚挙にいとまがない、と『日本人こそ知っておくべき世界を号泣させた日本人』という本に書いています。

そこでは、ザビエルやバードも取り上げられているのですが、面白いのは、有名な喜劇王チャップリンのエピソードでした。チャップリンは、雇っていた日本人秘書の誠実な態度に「カンメイを受け、一時は使用人をすべて日本人にしていた、ということです。普通の人でも、日本人であるというだけで信用があった、日本人がそれだけ信頼できるとみなされていたということでしょう。」

一九二二年に日本を訪れたアインシュタインのインタビュー記事も紹介されています。「私はまず第一に日本の国民の歓待を心底から感謝しなければならない。そして地球上にこのような謙譲にして品德のある国民が存在することを心に刻まなければならない。世界各地を旅行した私はいまだかつてこのような快い国民にであつたことがない。日本の自然や芸術は美しく親しみ深い。また一種独特の価値ある「カオク構造」についても、日本国民は欧州かぶれしないように希望してやまない。私は味噌汁を吸い、畳の上にも座つてみた。短い経験であるが、日本国民の日常生活を直に受け入れることができた外国人の一人であることを信ずる」（『朝日新聞』一九二二年二月二二日）。

アインシュタインは、一般の日本国民に一貫して品德があると感じたからこそ、このような誉め方をしているでしょう。

たくさんの方々が日本の風景や日本人の気質を誉めてきましたが、その根本で結局、日本では教育を受けた人だけでなく、どんなに貧しい人でも道徳を身に付けているということに感心しているのです。すべての人々が秩序によって治められている。

それはつまり、日本人の知性とか道義とかいうものが、あとからの教育によって植え付けられたものではないことを物語っているのだと思います。日本では、道徳は教えられるものではなく、最初から身に付いているものであることを示しているのです。

そういうことも、もともとの自然道の性質に関連付けられるだろうと思っています。

(田中英道『日本人の知らない日本の道徳』)

問一 傍線部 a～j と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- a ヘンカク 6
- ① 彼の無実をカクシンする。 ② カクシキを重んじる。
- ③ カクメイで多くの人が死んだ。 ④ ミカクの優れた料理人。
- b チョウテイ 7
- ① 日本テイエンを見て回る。 ② ホウテイで争う。
- ③ カイテイ火山の爆発があった。 ④ 候補者をセンテイする。
- c イセイ 8
- ① 父の後を継いでセイジ家になる。 ② 弟は私とセイカクが似ている。
- ③ 人の出入りをセイゲンする。 ④ ロケットがカンセイする。
- d カイシヤク 9
- ① 先生にエシヤクする。 ② 友人仲間でお金をタイシヤクする。
- ③ 方位ジシヤクで方角を知る。 ④ 十分の一のシユクシヤクにする。
- e ダンアツ 10
- ① ダンカイの世代。 ② ダンリョクをもたせて計画を練る。
- ③ 布をサイダンする。 ④ ショウダンが成立する。
- f コモン 11
- ① コドクなナラソン選手。 ② コセイ豊かな施設の子どもたち。
- ③ 往時をカイコする。 ④ ゆっくりとコキユウする。
- g ヨクセイ 12
- ① 台風のヨクアサは快晴だった。 ② 有名な温泉にニユウヨクする。
- ③ ヨクボウをコントロールする。 ④ 組合活動をヨクアツする会社。
- h ハイリヨ 13
- ① 古びたりヨカンに泊まる。 ② 一休さんは破天荒なソウリョだ。
- ③ エンリヨなく召し上がれ ④ 戦争でホリヨになった祖父。
- i カンメイ 14
- ① カンゼンムケツの投手。 ② 両親にカンシヤする子どもたち。
- ③ けが人をカンビョウする。 ④ ユウカンな兵士。
- j カオク 15
- ① オクジョウで雪下ろしをする。 ② キオクがなくなる。
- ③ オクビョウな弟。 ④ オクバに物のはさまった言い方。

問二 空欄A・Bにあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は16・17。

- A 16 ① しかし ② そして ③ だから ④ すると
B 17 ① さらに ② ただし ③ なぜなら ④ つまり

問三 二重傍線部Ⅰ「因果応報」・Ⅱ「名残」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は18・19。

- Ⅰ 18 ① 行為の善悪に応じた報いがあること ② 大人物は後から大成すること
③ わずかな失敗が命取りになること ④ 努力すれば必ず報われること
Ⅱ 19 ① 風が止んでもまだ静まらない波のこと ② まだそれを思わせるものが残っていること
③ 別れるのに忍びないという気持ちのこと ④ 自分の心にある、幼かった頃の記憶のこと

問四 傍線部Ⅰ「では、「道理」とは何なのでしょうか」とあるが、「道理」についての説明として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は20。

- ① 神仏の教えを学ぶことによって、身に付けられたものであり、神仏の教えを学べない貧しい者には理解しにくい、高い身分の者だけが身に付けている道徳。
② あとからの教育によって植え付けられたものではなく、日本の「自然道」と関連した、日本人なら誰でも最初から身に付いている、生きる規範のようなもの。
③ 多神教を信奉する日本人にとっては「神から与えられた光」のようなものであり、「理性」と同じ意味を持つている、自分の生き方を支えている抽象的な観念。
④ 神武天皇の即位後、日本の豊かな自然を背景にして培われた全ての日本人が持つ崇高な観念であり、他の人々を思いやり周りに感謝する心が体現されたもの。

問五 傍線部2「ザビエルは日本人を見誤った」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は21。

- ① 当時のスペインは世界一の文明国であったのに対して、日本では文明を感じさせる最先端の技術も建造物もないことで、他国と同様の野蛮な人々と勘違いしてしまったから。
② 西洋にはない火山の頂きに映える緑の美しさや、丘の斜面の常緑樹などの茂り具合を見ると、なんとも言えない恐怖心を感じ、早く帰国したいという焦りが出てきたから。
③ 日本では西洋の国々とは違って、謝礼や賄賂などを決して受け取らない、融通のきかない民族だと決めつけて、日本人の心の奥にある崇高さを見抜くことができなかつたから。
④ キリスト教こそが最高の宗教であり、自然道は原始的な宗教だと階級的な認識をし、日本人の内面に潜ん

でいる根源的な宗教性というものを見て取ることができなかったから。

問六

この文章の表現の特徴として、最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は22。

- ① 最初に話題を提示し、そのことについていろいろな具体例を挙げて考察し、最後に結論を述べている。
- ② 最初に文章全体の結論を述べ、次にそれとは違う考え方を対比的に挙げて、読者の理解を深めている。
- ③ 最初に話題に導くさまざまな具体例を挙げ、科学的分析を付け加えた上で、結論にむすびつけている。
- ④ 最初に問題を提起して注意を喚起し、それに関連した文献の例を引き、最後に解決策を提示している。

三 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。解答番号は23〜38。

話すには言葉を用いますが、友だちの間にはいろいろと仲間たちの言葉があるでしょうし、それぞれにそれぞれの伝達方法があつていいと思います。けれど、第三者に伝える時には、やはりきちんとした日本語を使って、きちんと論理的に話を進めていく必要があります。日本語は私たちの母国語ですね。これを正しく使えなければいけません。

なぜかと言いますと、これはよく息子に言ったことなのですが、どんなに外国語を勉強しても、その水準が母国語の程度から上にはいかないんです。だから母国語をきちんと身につけておかなければいけない。

外国語というのはひとつの道具みたいなものですね。コンピュータ用語が英語になつたからといって、アメリカが支配するなんて、そんなことを考える必要はないんです。いくらコンピュータに英語が使われても、それは私たちにとってはやはり外国語として、要するに道具なんです。

ただ、その道具を使ってベラベラとしゃべればいいのかというと、そうではありません。私など外国人の中に住んでいますから、それがよくわかります。

日本人には英語にかぎらず、外国語に巧みな人がいます。その反対に、あまり巧みでない人も多い。ア
見ていると、外国人が¹耳を傾けるのは、ベラベラとその国の言葉を巧みにしゃべる人ではなくて、ポツポツとでもいいけれど、何か伝えることがある人のほうなんです。

つまり、¹語学の巧みさではなく、伝える内容のほうが重要なんです。言葉は伝えたいことを伝えるための道具に過ぎないのだ、ということですね。そういうことが、外国人の中に住んで見ていると、よくわかるんですね。

A、外国語は道具だと思って勉強したほうがいいと思います。英語だって、アメリカ人やイギリス人のように話せるようになる必要なんて、重要なことではないんです。

外国語を学ぶというところで、息子が十三歳の時でしたが、彼をはじめてイギリスに連れて行ったことがあります。というのは、イタリアの高等学校では、英語なんて他で学んでくれと言うからです。あの国ではそういう¹X的なものは各自が学校の外で学ぶべきことであるということになっています。テツガクとか美術とかは勉強するんですけれど。

しょうがなく、外に勉強に行かせることにしたわけです。五年ほど続けましたでしょうか、十三歳の頃から毎年、夏休みになると息子をイギリスに行かせました。

それで、最初に行った時です、まあ最初ぐらいはということで私が連れて行ったのですが、その時、フリーガンの一隊と出会ってしまったんです。フリーガンというのは、お酒を飲んで酔っぱらって騒ぐ、サッカーのファンたちのことですよ。彼らはもちろん英国人です。だから、英語をちゃんと話します。しかし、その時、私は息子に「あの人たちと同じような英語を話す必要はないのよ」って言ってやったんです。イ

といつても、そのフリーガンたちの英語がブロークンだからいけないということではありません。話す中身のことを私は言ったわけです。

話すものがきちんとある人は、不十分なイングリッシュで話しても、英国人はちゃんと聞きます。

とはいえ外国語はできるにこしたことはないですから、そのシユウトクにとっての問題点は、やはり母国語の能力なんですね。ですから、私は、日本ではもう絶対に、国語というものをきちんと教育しなきゃいけないと言いたいんです。 **B**、頭の中で考えるのも、言葉にして考えているのですから。

国際化というのは、もうそこまで来ている。どんなに外国語が話せても、母国語がまずきちんと話せることが重要なんです。そして、伝えるものがきちんとある人ですね。そういう時にはじめて他者と通じ合えるんです。

ただ単に英語を覚えたからといって、伝達能力ができたなどとお思いにならないでください。

それと、論理的に話すということが必要ですね。

どうということかという、たとえば、イタリアの学校では国語というのは作文なんです。そればかりか、すべての学問、学科は、数学を除けば口頭試問で行なわれる。それからギリシア語とラテン語の翻訳というのもあります。

大学で専門科目を学ぶ前にその準備としての教養科目を教える普通高校はそういう教育をしていて、息子の通っていたリセもそうでした。

それで、まず、作文をどう書くのか、ということを彼にアドバイスしました。その時、私は「起承転結」ということを教えたんです。私は息子の学校の勉強には、イッサイ関与しません、こういうことは私が教えられることですから。

たとえば、学校で先生が質問してきます。すると、生徒は、自分が知っているのだということ先生に示さなければなりません。その時、先生はしばしば、生徒が言った最初の言葉を聞いただけで、「この子はわかっている」と判断してしまう危険性があるわけです。 **ウ**

つまり、「起」のところ、「私は何を話す」ということをはっきりと言うようにするんです。そうすると、先生が聞いてくれるようになります。

次の「承」のところでは、「これから話すのは、何と何と何である」と言います。そして「転」のところ、「承」であげたことについてひとつひとつ話を テンカイしていつて、最後の「結」で結論を言うわけです。

この「起承転結」というのは日本でしか言われていないことみたいですが、これはインターナショナルになるものだと私は確信しております。イタリアでも、これは作文や口頭試問に充分に通じると思ったので、息子に助言したのです。

少年の頃の息子は内気だったので、その頃の口頭試問があまりよくできなかったんです。それで、私は彼に、「あなたは、答えている相手が全部わかっていると思込んでいるから **Y** が足りなくなる」と言ったんです。「あうではなく、何も知らない人に向かって言うように説明してみなさい」と。

それを救うのが論理性なんですね。「起承転結」というのは、ある意味では、書いたり、口で言ったりと、他者に伝える上での論理性だと思います。だから、論理学というのは、何も古代のギリシアやローマにだけあったわけではなく、われわれの時代でも充分に通ずる。だからそれを活用したらいいと思うんです。

あなた方は、もうこれからは外国人とのつきあいが普通になっていくでしょうし、外国人にかぎらず、あなた方

とあまり共通項をもっていない大人とのつきあいもしていくことになります。

しかし、もしもそれができずに自分の中にこもってしまったら、それはあなた方にとって得でもないし、人生がつまらないものになってしまいます。さつきお話しした、サイエンスの要素の最後の部分、つまり他者に伝えることを欠いてしまうわけですからね。[エ]

やはり、きちんと伝えることができなければならぬ。それも外国人だけにかぎらず、あなた方にとっては、もしかしたら外国人以上に外国人かもしれない大人にも伝えなければならぬわけですね。

そういう場合に役に立つのが、きちんとした話し方、つまり、「起承転結」のような [Z] 的な話し方なんです。

これは国や民族などを越えたものですから、あなた方と年齢が違う人たちとも通じ合えるひとつの。ユウコウな方法になるものと思います。

(塩野七生『生き方の演習』若者たちへ)

問一 傍線部 a～e と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は [23] ～ [27]。

- a テツガク [23]
- ① 財務大臣をコウテツする。 ② がれきをテツキョする。
- ③ ソクラテスはテツジンだ。 ④ 試験のためにテツヤした。
- b シュウトク [24]
- ① シュウイから批判される。 ② 彼はユウシユウな学者だ。
- ③ 草書体をレンシユウする。 ④ 彼はお金にシユウチャクしている。
- c イツサイ [25]
- ① 何でも入れておけるガツサイ袋 ② 増税が国会でサイケツされた。
- ③ 絵のサイノウを發揮する。 ④ 自然のサイガイに備える。
- d テンカイ [26]
- ① 地球はジテンしている。 ② テンケイ的な症状。
- ③ ライトをテントウする。 ④ テンラン会の絵。
- e ヌウコウ [27]
- ① コウリツ的な工場設備 ② 最近の国民はコウトク心に欠ける。
- ③ 源氏にコウサンする平家。 ④ 学校のコウドウに集まる。

問二 空欄 A・B にあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は [28]・[29]。

- A [28]
- ① だから ② ところで ③ また ④ おまけに
- B [29]
- ① けれども ② なぜなら ③ あるいは ④ そして

問三 二重傍線部Ⅰ「耳を傾ける」・Ⅱ「できるにこしたことはない」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は **30** ・ **31**。

- I **30** ① 敵意を抱く ② 親しみを感じる
③ 熱心に聞く ④ 少し疑問に思う
- II **31** ① できると後で有利になる ② できるのは当然のことである
③ できるのは自慢にならない ④ できる方が一番ありがたい

問四 空欄 Y にあてはまる語として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は **32** ～ **34**。

- X **32** ① 教育 ② 実用 ③ 個人
- Y **33** ① 言葉 ② 知性 ③ 思慮
- Z **34** ① 主観 ② 楽観 ③ 論理

問五 この文章からは、次の一文が抜けている。**ア**～**エ**のどこに戻すのが適切か。番号で答えなさい。解答番号は **35**。

35
でも、「起承転結」を覚えておきますと、それが防げます。

- ① **ア** ② **イ** ③ **ウ** ④ **エ**

問六 傍線部Ⅰ「語学の巧みさではなく、伝える内容のほうが重要なんです」とあるが、これはどういうことか。

その説明として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は **36**。

- ① 言葉は伝達手段としてはなくてはならないものであるが、外国では語学のできるエリートは信用できないと考えられており、苦勞しながら生きている一般的な庶民の方に親しみを感じること。
- ② 言葉は伝えたいことを伝えるための道具に過ぎず、外国では、その国の言葉を巧みに話せるが中身がない人より、言葉が稚拙でも、自分に伝えようとする人がある人の話に耳を傾けるということ。
- ③ 言葉はその国や民族が長い年月をかけて作り上げてきたものであり、他の国や民族の人たちがマスターできるとはならないので、言葉が話せる話せないではなくその人の人間性が大切だということ。
- ④ 言葉は時代によって変化していくものであり、同じ国の人間であっても、現代語しか使えない人がいることを考えれば、外見にこだわるのではなく、自分を磨くことが最も必要とされるということ。

問七

傍線部2「母国語がまずきちんと話せることが重要なんです」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は37。

- ① 私たちは外国語が話せないと劣等感を持つ傾向にあるが、むしろ外国人は、自分の所属する国の言語や文化を知らないと信用しないということを考えると、国際人になるためにも国語を勉強することが急務だから。
- ② 私たちは日本に住んでいる限り、外国語を話したり書いたりする機会はほとんどないということを考えると、正しい日本語を学ぶことで相手とコミュニケーションがとり易くなり、無難に暮らすことができるから。
- ③ 私たちはどこに行っても日本人的な思考から抜け出すことは不可能であるということを考えると、むしろ日本の歴史や文化を母国語で正しく伝える能力を持つことが外国人に信用されることにつながるから。
- ④ 私たちは普段、母国語で考えており、どんなに外国語を勉強してもその水準が母国語の程度から上にはいかないということを考えると、高水準の外国語を身につけるならむしろ母国語の能力を高めるべきだから。

問八

本文に書かれている内容として適切でないものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は38。

- ① 友だちとの間ではそれぞれの伝達方法があつていいが、第三者に伝える時には、やはりきちんとした日本語を使って、きちんと論理的に話を進めていくことが必要だ。
- ② 自分の子どもに最初に外国語を学ばせようと思うなら、イタリアのような保守的な国ではなく、イギリスのような、開かれた考え方を持っている国にしたほうがよい。
- ③ 「起承転結」は、日本でしか言われていないことのようにだが、これはイタリアの作文や口頭試問にも充分通じる、インターナショナルになれるものだと確信している。
- ④ きちんとした話し方をするということは、国や民族などというものを越えたものであるから、若い人たちが年齢が違ふ大人たちと通じ合えるひとつの手段となり得る。